

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔社会〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [社会]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物が残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。また、近年の自然災害の脅威は、本市においても大きな課題となっており、高い防災意識が求められている。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図ることや、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えること、社会参画しようとするには課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫 ② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫 ③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫 ⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元や資料等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ⑧ 本文以外の記述の工夫 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

3 各教科書の特徴

東京書籍

1 基礎・基本の定着

視点① 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「国土の地形の特色」では、次の地形(数)について、具体的名称を日本地図の周りに示したり、調べて空欄に書き込むようにしたりしている。
平野(15) 川(22) 山地・山脈(14) 湖(5) 高地(2) 台地(1) 盆地(4)
- 5年「世界の中の国土」において、竹島、尖閣諸島、北方領土の位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題」という文章資料を1ページ掲載している。
- 6年「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、写真、インタビュー、年表といった6つの資料から、2ページにわたって戦後の広島市の様子を示し、学習問題「長く続いた戦争は、人々にどのようないきょうをあたえたのでしょうか。」を調べ、考えるようにしている。

視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年「世界の中の日本」において、「国旗と国歌」と題したコラムに、オリンピックで掲げられた国旗の写真、君が代の楽譜等を示すとともに、我が国及び諸外国の国旗と国歌について「敬意を表し、友好を深めるために役立っています。」と説明している。
- 6年「日本とつながりの深い国々」において、アメリカ・韓国・中国・サウジアラビアを例示し、衣食住、学校や子どもたちの生活、文化・スポーツ・産業等について調べ、日本と比較することで特色を考えるようにしている。また、各国について調べたことをまとめた後に、オリンピック・パラリンピックを通じた国際交流について考える学習を示している。
- 6年「世界の未来と日本の役割」において、世界の課題として紛争や環境問題等を例示するとともに、解決に向けた取組として国際連合、日本のODA及びNGO、持続可能な開発目標等を示し、最後に「これから生きるわたしたちにできること」を考える学習を示している。

視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」の視点について、各学年の「学習の進め方」のページに、「活用のポイント」として①～③を示し、キャラクターのマークの説明をしている。下①～③は、6年生の表記。
① 位置や広がりに着目 ② 時間に着目 ③ かかわりに着目
- 側注などで見方・考え方を表すキャラクターのマークを示すとともに、どのような見方・考え方を働かせるかを主に問いで示している。(明治時代以降の戦争に関するページには、キャラクターのマークを用いていない。)
- 5年「自然災害を防ぐ」では、マークとともに「日本のどこで、どのような自然災害が起きているのかな。」といった見方・考え方を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やグラフなどの様々な資料を用いて学習内容への興味・関心を高めている。
- 5年「米づくりのさかんな地域」では、14の資料をもとに、庄内平野で米づくりが盛んであることを示し、学習問題「庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにふうや努力をして、よりよい米を生産しているのでしょうか。」につなげている。
- 6年「今に伝わる室町文化」では、7つの資料をもとに、書院造が現在の和室のもとになっていることを示し、学習問題「室町時代の文化はどのようなものだったのでしょうか。」につなげている。

視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 各見開きページの中に「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」の言葉とともに各時間のめあてを明示している。
- 4年「自然災害からくらしを守る」では、静岡県のような自然災害を例示し、浜松市の地震を事例として取り上げた小単元「地震からくらしを守る」へ展開している。
 - ・ 「つかむ」では、地震の被害を把握した後、学習問題「地震からくらしを守るためにだれが、どのようなことをしているのでしょうか。」を設定している。次ページに学習問題について予想する4人の子どものイラストと吹き出しがあり、その下に学習計画を立てようというコーナー(調べること・調べ方・まとめ方)がある。
 - ・ 「調べる」では、家庭の備え、学校や通学路の備え、市の取組、市と住民の協力、住民同士の協力を調べるようにしている。
 - ・ 「まとめる」では、学習問題を再提示し、結論を出し合う4人の子どものイラストと吹き出しがあり、自助・公助・共助・互助についてカードにまとめる活動を示している。
 - ・ 「いかす」では、実際に避難所になったときに起こる可能性のある問題を取り上げ、意見を出し合う「ひなん所シミュレーション」ゲームを示している。
 - ・ 「ひろげる」という形で、風水害・火山災害についても調べられるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数(重さ)は、次のようになっている。 ※重さは一の位を四捨五入。

3年	148ページ(約310g)	4年	180ページ(約370g)
5年(上)	128ページ(約270g)	6年(政治・国際編)	116ページ(約260g)
(下)	144ページ(約300g)	(歴史編)	160ページ(約340g)
- 選択可能な教材を目次に示している。また、選択可能な教材とは別に、小単元の最後に「ひろげる」

として他の教材例を示している。

- 4年の学習内容を5つの単元で構成しており、「県内の伝統や文化」と「先人の働き」を「きょう土の伝統・文化と先人たち」として1つの単元にまとめている。
- 5年「情報を生かす産業」では、情報や情報通信技術を活用して発展している産業として、コンビニエンスストアを取り上げている。
- 6年「わたしたちの生活と政治」では、「わたしたちのくらしと日本国憲法」と「国の政治のしくみと選挙」として、憲法と政治の仕組みについて、2つに分けて小単元を構成している。
- 6年の歴史は、12の単元で構成している。
- 広島県に関する教材は次の通りである。

【5年】

- ・ 「くらしを支える工業生産」において「広島県呉市でつくられた船」の写真を掲載している。
- ・ 「自動車をつくる工業」の「ひろげる」において「くらしを支える石油工業」を取り上げ、大竹市の地図や「岩国大竹コンビナートにある石油工場」の写真を掲載している。
- ・ 「情報産業とわたしたちのくらし」の「ひろげる」において「新聞社の働き」と題して、4ページにわたって中国新聞社を例示している。
- ・ 「自然災害を防ぐ」において、福山市の「耐震工事」の写真、広島市の「平成26年8月豪雨での土砂災害」の写真を掲載している。

【6年】

- ・ 「わたしたちのくらしと日本国憲法」の「ひろげる」において『平和学習の街ヒロシマ』を訪ねて、2ページにわたって平和への取組を掲載している。
- ・ 「武士の世の中へ」において、廿日市市の「厳島神社」の写真を掲載している。
- ・ 「今に伝わる室町文化」において、北広島町の「壬生の花田植」の写真を掲載している。
- ・ 「長く続いた戦争と人々のくらし」の単元の導入において、2ページにわたり、原爆ドームの写真や平和記念資料館の館長の話に掲載している。
- ・ 「日本の世界文化遺産」において、「厳島神社」と「原爆ドーム」の写真を掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。
- 3年「事故や事件からくらしを守る」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ イラスト①「身近な地いきのあぶない場所」
→ 本文「イラストを見て、まちのあぶない場所について話し合いました。」
 - ・ グラフ②「三鷹市の事故の数」、3「三鷹市の事件の数」
→ 本文「グラフを見ると、事故と事件の数がへってきているよ。どうしてかな。」
- 5年「自動車をつくる工業」の「自動車の部品をつくる工場」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ 写真①～④シート工場の作業の様子
→ 本文「シート工場では、組み立て工場からの情報を受け取り、組み立て工場では組み立てる車種の順番通りにシートをつくります。完成したシートは、検査をしてトラックに積みこみ、組み立て工場に運びます。」
 - ・ イラスト⑤「自動車に使われるさまざまな部品」
→ 本文「1台の自動車を組み立てるために必要な数多くの部品を、すべて組み立て工場で作ることはできません。」
 - ・ イラスト⑥「組み立て工場と関連工場のつながり」
→ 働く人の話「組み立て工場と同じように、シート工場も、シートの生産に必要な小さな部品を部品工場から仕入れています。」

視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「ことば」やマークを付したコーナーで取り上げ、解説している。
- 情報活用に関する「まなび方コーナー」を設け、資料の読み取り方やまとめ方など学習技能について示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 図表は、色調や色の組み合わせで区別している。
- 文字はユニバーサルデザインフォント、印刷に植物油インキを使用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 「まとめる」ページには、単元の学習問題やキーワードを再提示している。6年では、「まとめる」「いかす」を年間22回設定している。
- 6年「町人の文化と新しい学問」の「まとめる」では、この時代に活躍した人物の業績をまとめ、説明するとともに、新しい文化や学問について、特色を表すキャッチフレーズをつくるようにしている。

1 基礎・基本の定着

視点① 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「国土の気候と地形の特色」では、次の地形（数）について、具体的名称を日本地図の周りに示したり、調べて空欄に書き込むようにしたりしている。
平野（9） 川（16） 山地・山脈（13） 湖（2） 高地（2） 台地（1） 盆地（0）
- 5年「日本の国土と世界の国々」において、竹島、尖閣諸島、北方領土の位置を地図中に示すとともに、「日本の国土はどこまで？」という文章資料を2ページ掲載している。
- 6年「戦争と人々の暮らし」では、写真、地図といった4つの資料から、2ページにわたって戦後の様子を示し、学習問題「日本が戦った戦争は、どのような戦争だったのだろう。それによって、人々の暮らしはどうなったのだろう。」を調べ、考えるようにしている。

視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年「世界の中の日本」において、「国旗と国歌」と題したコラムに、オリンピックで掲げられた国旗の写真、オリンピックで国歌を歌う日本人選手の写真等を示すとともに、我が国及び諸外国の国旗と国歌について「たがいに尊重し合い、敬意をはらってあつかうことが大切です。」と説明している。
- 6年「日本とつながりの深い国々」において、アメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビアを例示し、日本とのつながり、国土や産業の様子、衣食住や学校など暮らしの様子、文化や習慣等について調べ、日本とのつながりを中心に考えるようにしている。
- 6年「地球規模の課題の解決と国際協力」において、世界の課題として難民や環境問題等を例示するとともに、解決に向けた取組として、NGOのアフガニスタンでの活動、国際連合（ユニセフ）、日本のODA、東日本大震災での外国からの支援、1995年の平和への誓い等を示し、最後に、「持続可能な開発目標」の中から、自分が実行したいと思うことを選ぶ学習を示している。

視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」の視点について、各学年の「社会科の見方や考え方」のページに、①～③を示し、具体例を挙げている。下①～③は、6年生の表記。
① 時期や変化 ② 場所や広がり ③ くふうや関わり
- 側注などで「学びのてびき」や児童の吹き出しを用いて、どのような見方・考え方を働かせるかを問いなどで示している。
- 5年「自然災害とともに生きる」では、「(気候に注目すると)日本には台風がくるし、雪がたくさんふる地域もあったよね。自然災害との関係を考えて・・・」といった見方・考え方を児童の気付きとして示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やグラフなどの様々な資料を用いて学習内容への興味・関心を高めている。
- 5年「米づくりのさかんな地域」では、14の資料をもとに、日本には米づくりが盛んな地域が多いことを示し、学習問題「米づくりのさかんな地域では、人々がどのようにくふうや努力をして米を生産しているのだろう。」につなげている。
- 6年「室町文化と力をつける人々」では、7つの資料をもとに、これまでの文化との違いを示し、学習問題「室町時代には、どのような文化が生まれたのだろう。」につなげている。

視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 各見開きページの中に、「この時間の問い」と「次につなげよう」という問いかけを明示している。
- 4年「自然災害にそなえるまちづくり」では、全国の様々な自然災害を例示し、静岡市の地震を事例として取り上げた小単元「地震にそなえるまちづくり」へ展開している。
 - ・ 看板の写真をもとに、「みんなで作った学習問題」として「地域では、地震や津波にそなえてどのような取り組みをしているのだろう。」を設定している。3年生の学習内容である事故や火災の学習経験をもとにした予想を促す記述の下に学習計画のコーナー（調べること・調べ方）がある。
 - ・ 市と関係機関の連携、情報、災害に備える施設、過去の災害、地域の取組を調べるようにしている。
 - ・ 「まとめる」では、学習問題を再提示し、結論を出し合う4人の子どものイラストと吹き出しがあり、だれが、どのような取組をしているのかを表に整理したり、標語をつくらしたりする活動を示している。
 - ・ 「せんたく」という形で、水害・火山災害・雪害についても調べられるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数（重さ）は、次のようになっている。 ※重さは一の位を四捨五入。
3年 172ページ（約350g） 4年 214ページ（約440g）
5年 252ページ（約510g） 6年 276ページ（約560g）
- 選択可能な教材を「せんたく」として目次に示している。また、大単元の最後に「ひろげる」として関連するコラムを掲載している。
- 4年の学習内容を6つの単元で構成しており、「県内の伝統や文化」と「先人の働き」をそれぞれ「地域で受けつがれてきたもの」「昔から今へと続くまちづくり」として別の単元で扱っている。
- 5年「くらしと産業を変える情報通信技術」では、情報や情報通信技術を活用して発展している産業として、スーパーマーケットを取り上げている。
- 6年「ともに生きる暮らしと政治」では、「憲法とわたしたちの暮らし」として、憲法と政治の仕組

みについて、1つにまとめて小単元を構成している。

- 6年の歴史は、飛鳥・奈良時代と平安時代を1つの単元にまとめ、11の単元で構成している。
- 広島県に関する教材は次の通りである。

【5年】

- ・ 「自然災害とともに生きる」において、「大雨による土砂くずれ」の写真として平成26年8月の広島豪雨災害の写真、広島市の「地震のゆれに強くする改修を進める、新幹線の線路の柱」の写真、広島市の「2015（平成27）年に完成した砂防ダム」の写真を掲載している。

【6年】

- ・ 「憲法とわたしたちの暮らし」において、「広島市の平和記念式典」の写真を掲載している。
- ・ 「武士の政治が始まる」において、廿日市市の「厳島神社」の写真を掲載している。
- ・ 「室町文化と力をつける人々」において、北広島町の「壬生の花田植」の写真を掲載している。
- ・ 「戦争と人々の暮らし」において、原子爆弾の投下に関する記述、「原子爆弾の被害を受けた広島」「原子爆弾が投下される前の広島」の写真を掲載している。
- ・ 「平和で豊かな暮らしを目ざして」において、広島市の「戦争が終わっておよそ1年後の小学校の授業」の写真、「広島平和記念公園をおとすれたアメリカのオバマ大統領」の写真を掲載している。
- ・ 「地球規模の課題の解決と国際協力」において、平成7年の平和への誓い全文と、平成29年の「平和への誓いを読み上げる小学校6年生の二人」の写真を1ページにわたり掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。
- 3年「事故や事件からまちを守る」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ 写真ア「交通事故の現場」
→ 本文「パトロールカーが来て、事故の様子を調べています。」
 - ・ グラフイ「市の交通事故の件数のうっつきわり」
→ 本文「イ」のグラフを見ると、事故の件数がだんだんと、へってきていることがわかるよ。」
 - ・ グラフウ「交通事故でなくなった人の時間べつ的人数」
→ 本文「ウ」のグラフは、たてのめもりが人数で、横が1日の時間を、それぞれ表しているね。「いちばん多いのは午後6時から10時で、いちばん少ないのは午後2時から6時だ。」
- 5年「自動車の生産にはげむ人々」の「部品はどこから？」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ 写真ア～ウシート工場の作業の様子
→ 働く人の話「数日前にとどいた注文に合わせて、シートを計画的につくり、決められた時間までに運びます。（中略）出荷するときには、自動車工場のラインで組み立てる順番と同じになるように、シートの順番をそろえてトラックに積みこんでいきます。」
 - ・ 地図エ「シート工場の位置」写真オ「自動車工場の中にある関連工場」
→ 吹き出し「できるだけ近い場所で部品を生産しようとしているんだね。」
 - ・ イラストカ「自動車工場と関連工場の結びつき」写真キ「シート」の布を生産する別の工場
→ 本文「関連工場を支える関連工場も、たくさんあるのです。」

視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「キーワード」に取り上げて示し、一部に解説を加えている。また、「解説」で用語を解説している。
- 情報活用に関する「学びのてびき」を設け、資料の読み取り方やまとめ方など学習技能について示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 図表は、色調や色の組み合わせで区別している。
- 文字はユニバーサルデザインフォント、印刷に植物油インキを使用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 「まとめる」ページには、単元の学習問題やキーワードを再提示し、学習者が空欄を埋める部分を設けている。6年では、「まとめる」「つなげる」を年間17回設定している。
- 6年「新しい文化と学問」の「まとめる」では、「新しく生み出された文化や学問と、その背景を図に表そう。」「学問と、新しい時代への動きを、関係図に表そう。」として図に整理するようにしている。

1 基礎・基本の定着

視点① 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「日本の地形や気候」では、次の地形（数）について、具体的名称を日本地図の周りに示している。
平野（17） 川（15） 山脈・山地（17） 湖（1） 高地（3） 台地（0） 盆地（0）
- 5年「世界から見た日本」において、竹島、尖閣諸島、北方領土の位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題」という文章資料を1ページ掲載している。
- 6年「アジア・太平洋に広がる戦争」では、写真、地図、グラフ、年表といった8つの資料から、4ページにわたって昭和初期の経済状況を示し、学習問題「不景気を乗り切ろうとした日本は、どんな方法を取り、その後、どのような道を進んでいったのだろうか。」を調べ、考えるようにしている。

視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年「世界のなかの日本とわたしたち」において、「日章旗（日の丸）と君が代」と題したコラムに、オリンピックで掲げられた国旗の写真を示すとともに、「オリンピック・パラリンピックと世界の国々」と題したコラムで、「参加する国に敬意を表すために国旗をたいせつにしています。」と説明している。
- 6年「つながりの深い国々の暮らし」において、アメリカ、中国、ブラジル、韓国を例示し、日本とのつながり、学校や子どもたちの様子等について調べ、それぞれの国の特色を考えるようにしている。また、各国について調べたことをまとめた後に、スポーツによる国際交流と文化による国際交流について調べ、考える学習を示している。
- 6年「国際連合と日本の役割」において、世界の課題として紛争や環境問題等を例示するとともに、解決に向けた取組として、国際連合、日本の国際協力等を示し、最後に、「持続可能な開発目標」の中から、「世界の人々とともに生きていくために、わたしたちには、何ができるか。」を考える学習を示している。

視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」の視点について、各学年の「この教科書の使い方」のページに、「見方・考え方コーナー」として①～③を示し、マークの説明をしている。下①～③は、6年生の表記。
① 空間 ② 時間 ③ 関係
- 側注などで見方・考え方を表すマークと言葉を示すとともに、どのような見方・考え方を働かせるかを主に問いで示している。
- 5年「自然災害から人々を守る」では、「空間」の言葉とマークとともに、「どこでどのような自然災害がおきているのだろうか。」といった見方・考え方を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やグラフなどの様々な資料を用いて学習内容への興味・関心を高めている。
- 5年「米作りのさかんな地域」では、7つの資料をもとに、自分たちの生活と米づくりの関わりが深いことを示し、学習問題「山形県庄内平野では、米作りをどのようにおこなっているのだろうか。また、その米をどのように消費者へととけているのだろうか。」につなげている。
- 6年「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」では、8つの資料をもとに、室町時代の祭りや建物が現在も残っていることを示し、学習問題「幕府が置かれていたところに生まれた文化と、今のわたしたちの暮らしのあいだには、どのような関わりがあるのだろうか。」につなげている。

視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 大単元の導入のページ以外は、各見開きページに「わたし（たち）の問題」を明示している。
- 4年「自然災害から人々を守る活動」では、東京都の様々な自然災害を例示し、東京都の水害を事例として取り上げた小単元「自然災害から命を守る」へ展開している。
 - ・ 「水害のことを知る」「水害について調べる」を経て学習問題「水害から人々の命を守るために、どのようにくふうや努力があるのだろうか。」を設定している。生活経験をもとにした予想の横には学習の計画のコーナー（調べたいこと・調べ方・まとめ方）を設けている。
 - ・ 水害の原因、水害を防ぐ施設、自然の力、情報について調べるようにしている。
 - ・ 「さらに考えたい問題」として、「自然災害から命を守るために、わたしたちには、どのようなことができるのだろうか。」を設定し、災害に備える取組を調べた後、災害対策として自分たちにできることを考える活動を促している。
 - ・ 「せんたく」という形で、地震・津波・火山災害・雪害についても調べられるようになっている。
 - ・ 「わたしたちの学びを生かそう」として、本単元の最後には、「伊豆諸島の人々を自然災害から守る」が設けられている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数（重さ）は、次のようになっている。 ※重さは一の位を四捨五入。
3年 158ページ（約320g） 4年 196ページ（約380g）
5年 280ページ（約540g） 6年 270ページ（約540g）
- 選択可能な教材を「せんたく」として目次に示している。また、大単元の最後に「わたしたちの学びを生かそう」として関連するコラムを掲載している。
- 4年の学習内容を6つの単元で構成しており、「県内の伝統や文化」と「先人の働き」をそれぞれ「くらしのなかに伝わる願い」「地いきの発てんにつくした人々」として別の単元で扱っている。
- 5年「情報を生かして発展する産業」では、気象情報を取り上げ、情報や情報通信技術が販売業に

活用されていることを学習するようにしている。

- 6年「わが国の政治のはたらき」では、「憲法と政治のしくみ」として、憲法と政治の仕組みについて、1つにまとめて小単元を構成している。
- 6年の歴史は、12の単元で構成している。
- 広島県に関する教材は次の通りである。

【3年】

- ・ 「交通事故や事件をふせぐために」において、広島県福山市を取り上げ、交通事故が起きたときの関係機関の連携、警察官の仕事、地域や市の事故防止と防犯の取組等を16ページにわたって例示している。

【5年】

- ・ 「自然災害から人々を守る」において、広島市の「砂防ダム」の写真を掲載している。

【6年】

- ・ 「憲法と政治のしくみ」において、広島市の「平和記念式典のようす」「平和記念式典で平和への誓いを読み上げる小学生」の写真を掲載している。
- ・ 「わたしたちの願いと政治のはたらき」の「せんたく」において、「自然災害からの復旧や復興の取り組み」と題して、6ページにわたって平成26年広島豪雨災害の様子、災害発生時の県市の対応、復興に向けた県市の取組を例示している。
- ・ 「武士による政治のはじまり」において、廿日市市の「厳島神社」の写真を掲載している。
- ・ 「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」において、福山市の「草戸千軒遺跡の市の復元模型」の写真を掲載している。
- ・ 「武士による政治の安定」において、呉市の「朝鮮通信使に出した料理」の写真を掲載している。
- ・ 「アジア・太平洋に広がる戦争」において、キーワードの欄に原爆に関する記述、「広島に落とされた原爆」「敗戦直後の広島原爆ドーム」の写真を掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。
- 3年「交通事故や事件をふせぐために」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ 写真①「交通事故のようす」
→ 本文「写真を見ながら、交通事故について話し合いました。」
 - ・ グラフ②「福山市でおこった交通事故でけがをしたり、なくなったりした人の数」、グラフ③「福山市でおこった交通事故の件数」
→ 本文「②や③のグラフを見て話し合いました。」、吹き出し「②のグラフを見ると交通事故でけがをしたり、なくなったりした人は、60才以上の人が多いよ。」「でも、交通事故がへってきているみたいだよ。どうしてへったのかな。」
- 5年「自動車工業のさかんな地域」の「自動車工場を支える関連工場」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
 - ・ 写真①・②シート工場の作業の様子
→ 働く人の話「関連工場が、指定された時間に注文された数の部品を自動車工場におさめないと、組み立てラインがとまってしまいます。」
 - ・ 地図③「鈴鹿市周辺にあるおもな関連工場」
→ 吹き出し「③の地図からも、関連工場が自動車工場の周辺に多くあることがわかるね。」
 - ・ イラスト④「自動車工場と関連工場のつながり」
→ 働く人の話「それらの部品は、外国もふくめた、134の関連工場で作ってもらっています。」
 - ・ グラフ⑤「日本の自動車工業で働く人の内わけ」
→ 吹き出し「⑤の資料からは、自動車工業で働く人の多くが自動車部品をつくっていることが読み取れるよ。」

視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「キーワード」に取り上げて示し、解説を加えている。また、「むずかしい言葉」で用語を解説している。
- 情報活用に関する「学び方・調べ方コーナー」を設け、資料の読み取り方やまとめ方など学習技能について示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに対応した図表として、色調や色の組み合わせだけの区別でなく、斜線やドットも使用している。
- 文字は教科書体、印刷に植物油インキを使用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 単元の最後に、学習問題を意識させる文章と、イラストと吹き出しで学習者が対話する場面を示している。6年では、学習のまとめを年間20回設定している。
- 6年「江戸の社会と文化・学問」では、くらしと文化についてまとめ、分かったことや思ったことを話し合っているイラストを示し、対話するようにしている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図ることや、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えること、社会参画しようとする事」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 見開きページに1つ程度、社会的事象の見方・考え方を具体的な問いで児童に示している。
- ・ 見開きページに、各時間のめあてとともに、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という問題解決的な学習の過程を示しており、児童が見通しをもって主体的に学習を進めるのに効果的である。
- ・ 広島市に関する教材として、6年「わたしたちのくらしと日本国憲法」では、「『平和学習の街ヒロシマ』を訪ねて」と題して、「平和への誓い」の全文や「平和記念資料館の見学」の写真を2ページにわたって掲載しており、5年「自然災害を防ぐ」では、「平成26年8月豪雨災害での土砂災害」の写真を掲載している。本市の平和に関する取組を例示していることは、平和の実現に貢献する意欲や態度の育成に効果的である。

意見2 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 小単元の中に2つ程度、社会的事象の見方・考え方を具体的な問いで児童に示している。
- ・ 見開きページに、各時間の学習問題である「わたし(たち)の問題」を示している。
- ・ 広島市に関する教材として、6年「憲法と政治のしくみ」では、本市の「平和記念式典のようす」と「平和記念式典で平和への誓いを読み上げる小学生」の写真を掲載しており、6年「わたしたちの願いと政治のはたらき」では、平成26年広島豪雨災害を教材化し、災害発生時の県市の対応や復興に向けた県市の取組等を6ページにわたり掲載している。

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地図〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [地図]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物が残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。また、近年の自然災害の脅威は、本市においても大きな課題となっており、高い防災意識が求められている。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図ることや、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えること、社会参画しようとする事には課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫 ② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 地図や資料等の配列
<内容の表現・表記>	⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑧ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 鳥瞰図や「地図の使い方」のページを8ページ設け、地図の見方、地図記号、方位、索引、縮尺、地形表現の説明をイラストを使って理解できるようにしている。その中で、鳥瞰図をもとに地図の見方を学習するために6ページ使っている。索引の使い方を実際の地名(柏)と5コマの漫画でマス目(縦線が経線、横線が緯線)を用いて説明している。
- 「世界全図と地球儀」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。

視点② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。また、北方領土、竹島、尖閣諸島の位置を示すとともに、別ページに竹島と尖閣諸島の写真を掲載している。
- 「日本の47都道府県」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、形や特色をクイズ形式で紹介している。
- 「日本の自然災害」を3ページ設け、M5.0以上の主な地震、2004～2017年の間に起こった主な台風・大雨・洪水、大雪といった自然災害が起こった場所及び活火山の位置を日本地図に示している。また、火山の噴火、地震、洪水、土砂災害、雪の被害、津波の写真(6枚)を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- オリジナルのキャラクターの吹き出しで地図の使い方や大切なポイント、地図を見ての気付きや疑問などを掲載している。
- 「中国地方」のページで、広島県内の主な産業などを、地図上に29の記号で示している。
- 世界の州別地図では、各地の特色となる自然、産業、文化、人物のイラストを示している。
- 全ての外国名に英語表記を付している。

視点④ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 絵地図と地図を見比べて、絵地図を分かりやすくする方法や工夫を考えるページを4ページ設けている。
- 地図を使った学習活動を促すために、キャラクターの吹き出しを使って下のような問いや活動を記載している。
 - ・ 中国地方を東西に走る高速道路を指でたどって、どんな都市を通っているかたしかめてみよう。
 - ・ 日本で2ばんめに長い利根川はどんな地域を流れているだろう。支流もたどってみよう。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 地図や資料等の配列

- 全102ページ、重さは約380g(※一の位を四捨五入)
- 日本とその周辺が1600万分の1、日本が400万分の1、各地方図は原則として100万分の1(北海道地方は160万分の1)、都市圏などの拡大図は50万分の1から5万分の1、また、世界地図は8000万分の1、世界の地方図は6000万分の1から1400万分の1の縮尺で示している。
- 巻頭に4ページを使って、世界地図と日本地図を掲載し、有名なものを地図に示している。
- 「資料地図、統計表」のページに「日本の歴史」が4ページ設けてあり、年表と当時の世界地図を照らし合わせて見ることができ、「日本の歴史と文化」のページが2ページ設けてあり、日本の藩名を記した地図に、日本の世界遺産、各地の名所や祭りが示されている。
- 日本の気候や地形を示した「日本の自然」を2ページ、日本の主要な水産業、農業、工業を地図に示した「日本の産業」を2ページ設けている。日本の気候では、主な4都市の雨温図を示している。

4 内容の表現・表記

視点⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 日本固有の領土について、北方領土や竹島を「日本固有の領土ですが」関係国に占拠され、「返還を求めています」あるいは「抗議を行っています」とし、尖閣諸島については、「日本固有の領土」と表記し、写真を掲載している。
- 京都市、奈良市中心部の地図に、金閣、銀閣、奈良の大仏の写真を掲載している。
- 世界遺産を地図上にマークと文字で示している。
- 世界の州別地図では、動物や料理を写真やイラストで紹介している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 陸の高さと海の深さについて、日本全図のページは13段階、「中国地方」のページは10段階の色分けで示している。
- 「日本の都道府県の統計」では、地方別に色分けして示すとともに、統計の上位5位までの都道府県の数値を赤太字で示している。
- カラーユニバーサルデザインに配慮しており、赤文字の都道府県や国名には白色で縁取りしている。また、文字を太くしたり、グラフや図形の線は色だけでなく実線や波線、点線など、線の形状を変えたりしている。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 宮城県南三陸町のハザードマップを掲載するとともに、「自分の地域のハザードマップを見て、どこでどんな災害が起こりやすいか、ひなんする場所とそこまでの道のりを確認しておこう。」と記載し、学習活動を促している。
- 多くのキャラクターを用いて、気付いたことを出し合う様子を例示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 「地図の約束」「地図帳の使い方」などを12ページ設け、地図の見方、地図記号、方位、索引、縮尺、地形表現の説明をイラストや地図を使った活動を通して理解できるようにしている。その中で、方位、地図記号、縮尺の説明に各2ページ使っている。索引の使い方を実際の地名（浜松）と浜松周辺の地図を用いて示している。
- 「世界と地球儀」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。

視点② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本の領土とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。また、「日本固有の領土」として、北方領土、竹島、尖閣諸島の位置を示すとともに、同ページに写真を掲載している。
- 「都道府県の名前と位置」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、形、文字、位置をクイズ形式で紹介している。
- 「日本の自然災害と防災」を4ページ設け、1891年～2017年までの主な地震の震源地とM6.8以上の地震が起こった位置を日本地図に示している。また、2000年以降の地震・火山の噴火、台風・豪雨・豪雪の被害について年表と写真（5枚）を掲載し、地図に記号で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- オリジナルのキャラクターの吹き出しで地図の使い方や大切なポイント、地図を見ての気付きや疑問などを掲載している。
- 「中国地方」のページで、広島県内の主な産業などを、地図上に16の記号で示している。
- 世界の州別地図では、各地の特色となる自然、産業、歴史、文化、人物のイラストを示している。
- 主要な外国名に英語表記を付している。
- 世界の州別地図では、地図上に紫の★印をつけ、様々な世界一を示している。

視点④ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 絵地図と地図を見比べて、絵地図を分かりやすくする方法や工夫を考えるページを2ページ設けている。
- 地図を使った学習活動を促す「地図マスターへの道」(Lv.1～3)や「トライ!」を設け、下のような問いや活動を記載している。
 - ・ 中国地方で一番高い山は何mあるかな。
 - ・ 製油の記号が海沿いに多い理由を77～78ページ（アジアの地図）や99ページ（貿易の地図）などから説明してみよう。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 地図や資料等の配列

- 全120ページ、重さは約340g（※一の位を四捨五入）
- 日本とその周辺が2000万分の1、日本が600万分の1、各地方図は原則として100万分の1（北海道地方は160万分の1）、都市圏などの拡大図は50万分の1から5万分の1、また、世界地図は9000万分の1、世界の地方図は6000万分の1から1500万分の1の縮尺で示している。
- 10ページを使って、地方ごとに160万分の1の「広く見わたす地図」を掲載し、有名なものを地図に示している。
- 瀬戸内海周辺を拡大した地図を掲載している。同ページに「広島市のようす」という主題図を掲載し、爆心地からの距離や原爆の被害状況を示している。
- 「資料図」のページに「日本の歴史と世界文化遺産」が2ページ設けてあり、日本の藩名を記した地図に、年表の出来事に関連させて示したり、日本の世界遺産や昔の国名がついた主な産物を示したりしている。
- 日本の気候や地形を示した「日本の自然のようす」を4ページ、日本の主要な農業、水産業、工業、交通を地図に示した「日本の産業のようす」を4ページ設けている。日本の気候では、瀬戸内の気候を含む主な6都市の雨温図を示している。

4 内容の表現・表記

視点⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 日本固有の領土について、北方領土や竹島を「日本固有の領土ですが」関係国が「不法に占拠している」とし、尖閣諸島については、「日本固有の領土」と表記し、写真を掲載している。
- 日本の各地方図のページに、「地下ダムによる沖縄県糸満市の農業」「洪水への備えー濃尾平野の輪中ー」「気仙沼付近の漁業の様子」など、学習内容との関連を図った主題図を示している。
- 京都市中心部の地図に、空から見た京都市中心部の写真を掲載している。
- 世界遺産を地図上に緑色のマークで示し、名称を緑色四角の枠囲みで示している。
- 世界の州別地図では、「集まれ!世界の子どもたち」として写真とともに、その国の文化や習慣を紹介している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 陸の高さと海の深さについて、「中国地方」のページでは、6段階の色分けと、「市街地」「田」「畑」「果樹園」の4種類の色分けを加えて示している。
- 「日本の統計」では、地方別に色分けして示すとともに、統計の1位の都道府県の数値を赤太字、2～5位を赤字で示している。
- カラーユニバーサルデザインに配慮しており、赤文字の都道府県や国名には白色で縁取りしている。また、文字を太くしたり、グラフや図形の線は色だけでなく実線や波線、点線など、線の形状を変えたりしている。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 表紙に「3・4・5・6年」と表記している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 子どもが作った防災マップを掲載し、「次のようなとき（海に近い公園、スーパーにいるとき）に大地震が起こった場合、どこへ避難するか考えてみよう。」と記載し学習活動を促すとともに、自分の地域のハザードマップを作成し、発表するまでの学習の流れを示している。
- 「地図マスターへの道」(Lv.3)では、地図をはじめ様々な資料を活用して説明することを指示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図ることや、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えること、社会参画しようとする事」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「地図の約束」や「地図帳の使い方」などを12ページ設け、イラストや地図を使った活動を通して、地図の見方、地図記号、方位、縮尺、地形表現を理解できるようにしており、児童が地図を活用するための基礎的な力を身に付けるのに効果的である。
- ・ 100万分の1の「中国地方」の地図に加え、瀬戸内海周辺を拡大した地図や、爆心地からの距離や原爆の被害状況を示した「広島市のようす」という主題図を掲載している。
- ・ 陸の高さと海の深さについて、「中国地方」のページでは、6段階の色分けと、「市街地」「田」「畑」「果樹園」の4種類の色分けを加えて示し、土地の様子を想像しやすくしている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 鳥瞰図や「地図の使い方」のページを8ページ設け、地図の見方、地図記号、方位、縮尺、地形表現を理解できるようにしている。
- ・ 100万分の1の「中国地方」の地図を掲載している。
- ・ 陸の高さと海の深さについて、日本全図のページは13段階、「中国地方」のページは10段階の色分けで示している。